遷延する神経根症に対するパルス高周波神経根ブロックの有用性についての検討

高原寛、小椋進
（ ももたろう痛みのクリニック ）

当院では帯状疱疹後神経痛だけでなく、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症、変形性脊椎症による神経根症に対して、ここ数年は年間５００－６００件程度の神経根ブロックを行っている。数回の神経根ブロックで改善する症例もあるが、強い痛みが短期間で再燃する脊椎疾患の場合には早期に観血的加療となる症例もある。
しかし難治性の帯状疱疹後神経痛や、まだ観血的治療の適応がない or まだしたくない or 頻回手術後等の脊椎疾患で、神経根ブロックである程度の改善が得られはするが、なかなか改善傾向とならず、やむを得ず長期化する症例もあり、治療に難渋する場合がある。
難治性の神経根症に対しての治療方法としては、慢性疼痛治療のガイドラインにも推奨されている方法としてパルス高周波神経根ブロックがあり、これは、手技的には神経根ブロックと同じだが、専用の針と装置を用いて、神経根にパルス高周波を印加し４２度になるように設定されており、通常６分間施行する治療法である。
今回は令和以降に行った８５例のパルス高周波神経根ブロックについて、その有用性について検討を行ったので報告する。